

ぐるっけ

平成六年七月二十七日第三種郵便物認可
平成十九年十月一日発行(毎月一回一日発行)
第十四卷第六号(通巻第一六二号)

鈴



ぐるっけ

俳句雑誌

GLOCKE

第162号

10. 2007

めつけばしら
目付柱

品川 鈴子

ついで参り墓に千草をたてまつる

シヨウウィンドー覗きもせずに敬老日

鏡板の岩絵具褪せ新松子

天女出づ目付柱に赤蜻蛉



碧き目のシテゆき桁足らぬ麻衣
球根を植ゑて胎児もこの位
酔芙蓉取材受けゐて紅潮す
厚物咲ルイ王朝の鬘かと
起き伏しに鴨越の芒活け
青通草握れば男おはせ茎さながらに



玉鈴吟

愛知 市川十二代

夕顔の白極まりて父を恋ふ
水打つて母の介護の車待つ
白玉や味も昔の宿場町
行く先の決めてあるらし大毛虫
片蔭に入りて歩巾の戻りけり

東京 市橋 章子

消印の滲む絵葉書梅雨の冷
片蔭を拾ひ拾ひて古書の街
流し眼の猫の番する片かげり
おつとりと信号待ちの祭馬
干梅の片辺の固し日へ返す

愛媛 今井 忍

母の忌の数珠新しや沙羅の花
早乙女にまじり知事植う新種苗
明日ゆく遠足下見のダム満水
紫陽花に濡れて裏戸の回覧板
風鈴のよく鳴る午後のティータイム

大阪 今谷 脩

梅雨つづく安居と念ひ雨読せり
よき畑よき田圃あり大向日葵
わが家にも白浜生れの浜おもと
螻蛄泳ぐ虫螻蛄などと言はれても
大正生れの唄など披露敬老日

香川 齋部 千里

青葉木菟声が声呼ぶ闇の中
一粒の真珠となりし芋の露
動行に和す山寺の牛蛙
生まれたる蟬透き通る翅持ちて
口笛で真似老鶯に返し鳴く

兵庫 浮田 胤子

しやぼん玉中をゆるゆる乳母車
お茶漬が一番暑き日のひるげ
長き日の立讀み少年まだ本屋
夕やけが真赤台風去りし日の
はまなすのよきかほりせり家近し

兵庫 馬越 幸子

七夕笹飾りて留守の交番所
奥の院屋根にあまたの梅雨茸
大祓へ了へたる禰宜の沓干して
梅雨の明け洗へる物は皆洗ひ
梅雨の明け4LDK開け放ち

大阪 大井 邦子

狛犬の鼻先に揺れ蜘蛛の糸
波止場にも茅の輪を構へ油送船
敬礼は掌みせず海涼し
卯波立つ舟屋商ふつみれ汁
鯉はねて濁りひろがる蓮の池

東京 大川富美子

祭りの灯どの子の顔もかがやきて
妙齡が男の手付き藪蚊打つ
ころび寝の手は覚めてゐて蚊を叩く
片蔭を逸れ少年の反抗期
無欲にはまだまだ間ありとこてん

香川 大空 純子

稲なびきリスト弾くごと青田風
まだ知らぬ苦行訪れ虎が雨
下を向く人多くなり梅雨曇
プチトマト少し元気に頬張りぬ
曾祖母も答え分からず夏に入る

埼玉 岡田 章子

田休みのうどん打ちをり半夏生
一掴みづつ草取り体操はじまりぬ
蓮の池浮葉立葉に雨のあと
孕みたる梅雨のままかり届きけり
母の忌の経に和すごと五月雨

愛媛 岡野 峯代

梅雨茸勢揃いして留守居役
黙然と薄き膝抱く梅雨夕焼
癒えるまでゆきつもどりつ青時雨
雨の日も水着になると水着抱き
おすましでおやつまつ児の日焼け顔

大阪 岡本 幸枝

美丈夫の細き笛の音梅雨に入る
梅雨晴れ間萌葱の抱を端折りて
地動説確かめているハンモック
子守はや眠り声なりハンモック
「しずか」てふ子豚のご褒美かき氷

大阪 奥田 妙子

水無月の戒壇めぐり真の闇
川沿いの光秀塚に白菖蒲
摂津峡源氏螢が飛び交はす
園児等がてんでに拾う柿の花
京鹿子昔話の茅葺き家

薬草歳時記

(一六二) 大豆(ダイズ)

八木 紀子

奥能登や打てばとびちる新大豆

飴山 實

ふり返れば日溜り。ふる里への想いです。節分の夜に鬼は外、福は内と幼い頃の懐かしい家族の弾ける声バタバタ走る音が蘇ります。厄払いの豆まきが記録に現れたのは室町時代半ばで穀物に靈魂が宿り大豆は特に靈力が強いとされた。古く黒豆はカラス豆とも呼び健康によしとされ黒豆茶として愛飲。今や低脂肪で蛋白質・Ca・ミネラルと栄養価が高く、女性ホルモンに似た働きをする植物性エストロゲン、イソフラボンや便秘に良いオリゴ糖・食物繊維や高血圧、高血糖を抑えるアデイポネクチンを増やす作用等で更に有名。初期弥生時代に中国より渡来し古事記に五穀の一つと記され、奈良時代に薬としても使用されその名は大いなる豆から大豆と呼び黄豆、黒、緑豆他と300以上の品種。荒地でも育つ大豆は根に根粒菌をもち大気中の窒素を固定し養分とし人体に必要な良い蛋白質を多く含む種子を作る

事で畑の肉と呼ばれる。

健康な大豆には根粒菌の住み良い環境作りが大切です。胚芽に多く含まれる大豆イソフラボンは更年期障害・骨粗鬆症・乳癌・前立腺癌等の予防に期待されるがとり過ぎてホルモンバランスを崩す恐れもあり、特にサプリメントは要注意です。

薬用部分は種子で「黒大豆」や、発酵した納豆の類へ「豆鼓」発芽しもやし状の物を乾燥した「大豆黄卷」を鎮咳・解熱・解毒・利尿・鎮痛や肥満予防に薬として用いる。大豆油(局)は軟膏基剤や食用、灯用、工業用に用い、大豆粕は味噌醤油他に飼料や肥料にと幅広く使われる。季語でお馴染みの豆種う・豆引く・豆干す・豆叩く等の手仕事も今は機械化された。先行き大豆農家がバイオエタノール燃料の作物畑に乗り換え、大豆食品が値上がりとか、NASA研究者は火星でのメイン食材に大豆を考案中とか…。時に「おいしい?」と聞けば「まずい」と答える夫と毎朝キナ粉ヨーグルトを食べて黒豆麦茶を飲み乍ら、ふと大豆の未来をあれこれ連想しています。

参考文献 「植物辞典」東京堂出版

「原色牧野和漢薬草大図鑑」北隆館

著者略歴神戸薬科大学卒

ダイズ [ダイズ属] (まめ科)

Glycine max (L.) Merr.

(*G.hirsta* Maxim.)

大豆 (英) Soy-bean

須賀
悦子画



遠くまでとびぬる雨や豆落し

高野 素十

豆飯食ふ舌にのせ舌に力入れ

石田 波郷

もういちど打つ豆殻に膝ついて

後藤 夜半

豆殻を干して飛鳥路ただねむし

加藤 楸邨

畦豆に鼪いたゞの遊ぶ夕べかな

村上 鬼城

森の端に陽を延べ老婆大豆打つ

佐藤 鬼房

畦豆に信濃の霧の凝りにけり

草間 時彦

大豆殻燃して五右衛門風呂沸かす

鈴木 愛子(ぐろっけ)

イスラムの祈りのかたち大豆打つ

塩出 眞一(ぐろっけ)

繰り出して貸農園に大豆引く

北島 明子(ぐろっけ)

鈴の奏

品川鈴子選

老鶯窓辺に移す母の床 兵庫 内山 芳子

文豪を偲ぶ住吉夏蓬

松蔭に動かぬ蜥蜴倚松庵

海の日の浜の糶り場は猫天国

日雷帰港の錨おろす頃 兵庫

果実酒の棚に李の瓶も増え

蔦若葉物置小屋を囲ひたる

バスの揺れ西瓜半分ぶら下げて

鳩でさへ片目を閉ぢる大暑にて 大阪

炎天に老人かざすスポーツ紙

炎天を朴歯の下駄でのし歩き

祭り舟沈下の橋もするすると

山迫り梅雨の六甲川唸る 兵庫

オートバイ齡重ねしアロハシャツ

山登る草木の息吹むさぼりて

首の汗一途に生きし日もありて

父の癖母の居眠り籐寝椅子 兵庫

藤井久仁子

新茶淹れ新婚の味問うてみる

余裕なき水槽に立つ祭體

忘れ草島の小路に忌の一字

河馬の歯を磨く園児や夏燕 兵庫

松明が峰に連なる山開

湯上りの嬰兒腕に夕端居

胡坐組み網を繕ふ日焼顔

風鈴や耳替えて聞くよき電話 兵庫

障害の足に白靴なじませる

呪文よみ失せものでし夏座敷

相槌を打てば気のすむ甚平かな

道のべの誰もふれざる梅雨の茸 兵庫

老鶯や昔の恋を語るらん

山煙る降りみ降らずみ梅雨最中

梅雨明けぬ摩耶山頂に鉄塔五

旅人に片陰伸ばし陣屋門 兵庫

鉾屋根に命綱持て居眠れる

岩崎可代子

的場うめ子

吉本 淳

秀 鈴 記

巻頭 三句 品川鈴子 評
四句〜十五句 秋田直己 〃

*選句は全て 品川鈴子

海の日の浜の糶り場は猫天国

内山 芳子

七月第三月曜日の「海の日」は海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う祝日として一九九五年に制定、翌年から施行された。国民の休日と言えども漁には出るので、漁船の戻る浜では、新鮮な魚を目当ての客が日頃より多く、糶市も活気付く。それを猫達がいち早く嗅ぎつけ、我が物顔にたむろして、浜の糶場は野良猫の祝祭さながら。

日雷帰港の錨おろす頃

上原口エ

日雷とは、雨を伴わず晴天に起こる雷で、早の前兆ともいわれる。長い船旅には予期せぬ事も起こるが、無事に懐かしい母港へと戻って来た。慎重に接岸して錨を下ろすころ、ふいに大音響が青空を駆け巡る。帰りを指折り数えて待っていた人達からの、歓迎の号砲のようだ。

鳩でさへ片目を閉ぢる大暑にて

弓場 赤松

「鳩が豆鉄砲を食ったよう」という喩えもあり、可愛い鳩は真ん丸い目が特長なのかもしれない。だがこの夏の異常な暑さには、さすが野生の丈夫な鳩でさえ耐え切れず、つぶらな目を片一方だけ閉じて、酷暑を凌いでいる様子。これがウインクなら微笑ましいが、どうやら外敵に備えて、片目はせめて身を守る為に力をこめて見張っているけなげさ。

オートバイ齡重ねしアロハシャツ

唐鎌光太郎

作者は以前ハワイに旅行されてお気に入りのアロハシャツを買い求められたのであろう。中七に齡重ねしとあるところから長年夏の来るのを楽しみにしておられるに違いない。アロハシャツを着て若々しく颯爽とした作者。いつまでもお元気です!!

余裕なき水槽に立つ祭鱧

藤井久仁子

祇園祭や天神祭の頃になると鱧の需要が一段と増える。

大繁盛の店なのだろう。仕入れた鱧が水槽に一杯になって
いる様子が上手に詠まれている佳句です。特に鱧は料理人
の特技が必要とされています。

河馬の歯を磨く園児や夏燕

有本 勝

春に渡来した燕も産卵後軽快に飛翔する頃、丁度六月四
日(虫歯の日)を迎えます。動物園では園児達が大きな歯
刷子を持って河馬さんの歯を磨いてあげる。気持よくなっ
た河馬さん、空には燕がすいすい飛んでいる。絵になる佳
句です。

呪文よみ失せものいでし夏座敷

的場うめ子

人は加齢と共に記憶力が衰えて来ます。自分が置いたも
のが何処に置いたか忘れて大騒ぎすることもあります。作
者は呪文を唱えると失せたものが出てくるという羨ましい
方です。ほほえましい佳句です。

老鶯や昔の恋を語るらん

吉本 淳

老鶯は春以上によく鳴き、声も大きく美しい。作者は老
鶯の鳴き声を聞き自分の若き良き時代に恋を囁いた日のこ

とを懐かしく思いだしておられるのだろう。そして老鶯の
鳴き声も同じように聞こえてくるのだろう。いつ迄もお幸
せにそしてお元氣にお過ごし下さい。

旅人に片陰伸ばし陣屋門

岩崎可代子

夏の午后、特に旅の疲れで歩いている時、片陰を探すも
の。歩いていると大きな陣屋の門が目につく。元大名の陣
屋であろうか、大きな門構えである。その門が大きな陰と
なっている。この大きな陰がずっと続けばよいのにと思い
ながら、旅の人は行くのである。陣屋門が見事な一句となっ
ている。

噴水の向かうも恋の待ち合はせ

横内かよこ

夏には涼風を与える噴水。待ち合わせの場所として選ん
だ公園の噴水に相手は未だ来ていない。向う側にも人待ち
の若い女性がいる。約束の時間を守る彼。今日は二人でど
んな一日を過ごそうかと思案する。作者の恋も噴水から始
まったのではないか。想像の膨らむ見事な句です。(以下略)